



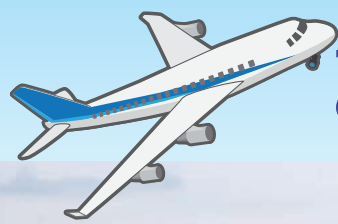
岩手大学

岩手大学広報誌
IWATE UNIVERSITY

Vol.41 OCTOBER
2018.10

INDEX

- P1…航空研究会 décoller ● まだ見ぬ景色へ飛べ！ 岩手大学航空研究会 décoller
 - P2…研究紹介 ● 19世紀のアメリカ文学から「男らしさ」を考える 人文社会科学部 准教授 高橋 愛
 - P3…キャンパスライフ ● サークル紹介 GANDAI UPDATES ほか
 - P4…センパイ紹介!! ほか ● センパイ紹介!! ● 筑波大学大学院 菅原 隆介さん
- TOPICS ● 復興大臣より岩手大学へ感謝状 ほか Information ● 70周年記念事業募金のご案内 ほか



まだ見ぬ景色へ飛べ!



私たちが聞きました!



広報室
学生スタッフ

■人文社会科学部4年 浅沼 希水(左)
■農学部1年 中村 琴乃(右)

岩手大学航空研究会 décoller

岩手大学では、たくさんの学生団体が目標に向かって活動しています。その中でも今、特に注目されているのが、滑空機制作チーム「décoller (デコレ)」です! décollerは鳥人間コンテスト(読売テレビ主催)の「滑空機部門」に出場することを目標に、飛行機を設計・製作しています。今年7月末に琵琶湖で開催された同コンテストでは、悪天候の中、自己最高となる**60.07m**の飛距離を記録しました!

これまでの活動

- 2005年 岩手大学 Let'sびざんプロジェクトとして活動開始。
- 2008年 アルミボックス桁採用。鳥人間コンテストに初出場するも、琵琶湖での最終安全審査で翼結合部分に不備・不合格。
- 2009年 GFRP(ガラス繊維強化プラスチック)桁採用。
- 2015年 木桁・CFRP桁のハイブリット桁採用。第38回鳥人間コンテスト出場、15.05m(16位)
- 2018年 第41回鳥人間コンテスト出場。60.07m(8位)



試作を重ね、機体を作り上げます

Q どのような活動をしていますか?

鳥人間コンテストで飛ばすための飛行機を製作しています。滑空機と呼ばれるものです。翼の長さは20m、胴体の長さは6mの大きさです。設計・製作・試験を繰り返し、より良い性能の機体を目指しています。

Q 活動のやりがいは何ですか?

担当する部門によって、それぞれの楽しさがあります。設計者は自分の考えたものが形になること、製作指揮する人は試行錯誤して製作方法を考えることが楽しいです。どの立場でもそれぞれが努力し、協力し合って飛行機を作っていく過程に、一番やりがいを感じます。

Q 活動していく上で大変なことは何ですか?

全部です! その中でも、機体や機材を輸送する資金を集めることが一番大変でした。また、時間をかけて懸命に製作した部品を作り直さなければならない、という事態も多く、スケジュール管理の苦労もあります。たくさんの苦労を共に乗り越え、飛行機を飛ばすことができた時の感動は、本当に忘れられません。

Q 来年度の目標を教えてください。

今年の鳥人間コンテストは、これまでよりも完成度の高い機体を作ることができました。しかし、製作日程が予定よりも遅れてギリギリまで製作に追われたり、新しい製作方法を十分に検証する時間がないまま、いきなり機体製作で用いたりと綱渡りの場面が多くありました。また、機体の組み上げや運搬、発進といった機体を確実に飛ばすための練習もあまりできず、大会では苦戦しました。来年は、機体を現在の約60キロから40キロまで減らし、センサーやGPSをつけるなど技術開発を加え、より軽く性能の高い機体を作ることが目標です。300m飛べる機体を目指し、その基礎となる技術の開発・改善を行っていきます。

Q 大学進学を目指す方へのメッセージをお願いします!

大学に入ると、色々な可能性が見えてくるとおもいます。こだわりを持つことも大事ですが、様々なことにチャレンジしながら大学生活を送って欲しいです。その一つとして、ぜひ décoller の活動にも興味を持ってもらえるとうれしいです!



支えあった仲間!

機体展示のお知らせ

平成30年10月27日・28日に開催される岩手大学オープンキャンパス・不來方祭で、今年の機体を展示する予定です。また、から揚げの屋台も出店しますので、ぜひお越しください!

機体展示の場所: 第一体育館(予定)

※詳細は、当日に配布されるパンフレットをご覧ください。

ご支援のお願い

岩手大学航空研究会 décoller では、コンテスト出場のため必要となる機体製作費・運搬費の支援を募っています。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。ご寄付の詳細はこちら



décoller ホームページ
<http://iwatedecoller.wixsite.com/home/blank-2>



インタビュー協力

代表 理工学部3年
楠上 奈央さん

19世紀のアメリカ文学から「男らしさ」を考える



人文社会科学部 人間文化課程

准教授 高橋 愛

アメリカ文学と一口に言っても、時代や地域、さらに、ジャンルによって様々な作家や作品があります。その中で私が研究対象としているのは19世紀半ばに活躍したハーマン・メルヴィルの文学で、彼の小説において「男らしさ」がどのように表象されているのかを分析しています。

1 ハーマン・メルヴィルとは

アメリカ文学は、奴隷制といった民主主義の理想と矛盾する問題を抱えながら社会が発展していくなか、19世紀半ばに大きな進展を見せました。批評家F・O・マシーセンによりアメリカン・ルネサンスと名付けられたこの文学的成熟は、ラルフ・ウォルド・エマソン、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー、ウォルト・ホイットマン、ナサニエル・ホーソン、そしてハーマン・メルヴィルの作品に見出されたものです。

メルヴィルは、アメリカ建国期に功績を残した名家の次男として1819年にニューヨークで生まれました。しかし、父親が事業に失敗し病死したことから学校を辞めて家計を支えなければならなくなり、銀行の行員などとして働いた後、1841年に捕鯨船の平水夫としてアメリカを離れます。帰国後、最初に乗り組んだ捕鯨船から脱走して南洋の原住民と暮らした体験をもとにした『タイプー』(1846)でデビューし、初期には船員時代

の体験を下敷きにした小説で人気を博しました。しかし、彼は文学市場でのウケが良い冒險譚ではなく芸術性の高い作品を書くことを志向するようになり、『白鯨』(1851)や『ピエール』(1852)といった作品を生み出しましたが、そうした長編作品が受け入れられることはなく、『信用詐欺師』(1857)で小説家としての筆を折ります。その後は詩作に転じ、『南北戦争を題材にした『戦争詩集』』(1866)などを発表しますが、世間からは忘れられた状態で1891年に亡くなりました。生誕100周年を迎えて全集が出版されたのをきっかけに1920年代に再評価され、メルヴィルはアメリカ文学を代表する作家の一人としての地位を確固たるものとしたのです。

写真1 スクリムショー
(抹香鯨の歯を素材に捕鯨船員が行っていた彫り物)

2 メルヴィルが生きた時代のジェンダー規範

メルヴィルが生きた社会、すなわち、19世

紀のアメリカ北部白人ミドルクラスの社会では、後にドメスティック・イデオロギーと呼ばれることになるジェンダー区分が浸透していました。この区分により、男は公的領域(生産活動の場)、女は私的領域(家事労働、出産や育児といった再生産活動が行われる家庭)に振り分けられるとともに、それぞれの領域での活動にふさわしい資質が「男らしさ」や「女らしさ」として作りあげられていきました。男は、ドメスティック・イデオロギーによって積極的・活動的で、合理的で、社会性があり、持続的に労働できるだけの身体的恒常性を持つとされるときも、市場での熾烈な競争を勝ち抜いて経済的・社会的に成功することが求められていました。

3 メルヴィルの散文作品に現れる「男らしさ」からの逸脱

幼少時には父の破産を目の当たりにし、青年期にはホワイトカラーとして勤めあげられなかったことから、メルヴィルは、社会に浸透していたジェンダー規範に違和感を感じていたと推測されます。また、平水夫として太平洋諸島をはじめとする外の世界を見てきた彼は、「男らしさ」が一つではないということを知っており、それゆえに、北部白人ミドルクラス社会の「男らしさ」の理念には批判的であったのではないかと考えられます。

同時代のジェンダー規範に対して批判的なメルヴィルの姿勢は、彼の小説に描き込まれている身体をめぐる問題や男同士の友愛などにつながります。例えば身体をめぐる問題に関しては、ドメスティック・イデオロギーに基づく規範に従うならば、「男らしい」男は、熾烈な競争が繰り広げられる市場で戦い続けられるだけの身体、言い換えるならば、五体満足な身体をしていなければいけないということになります。しかし、彼は『ホワイト・ジャケット』(1850)において、肉体ばか

りでなく人としての尊厳をも傷つけるものとして鞭打ちを批判しながら、あえて鞭打ちの処罰を受けて自らの尊厳を守り抜く人物を登場させることで、身体と「男らしさ」の関係性を掻き乱してみせます。



写真2 19世紀の捕鯨ボードの模型

ここまで私の研究テーマについて述べてきましたが、文学作品におけるジェンダー規範の攪乱は、メルヴィルの小説、さらにはメルヴィルの文学だけに見られるものではありません。「アメリカン・ルネサンス」の文学にも、当時の文学市場で人気を博していた女性作家の作品にも、同時代のジェンダー規範に対する抵抗や逸脱がうかがえることが指摘されています。今後は、メルヴィルの詩作品や同時代の他の作家の作品についても研究を進め、アメリカにおけるジェンダー規範を文学作品を通して検討していきたいと考えています。

GANDAI UPDATES

岩手大学公式 Facebook に掲載した広報室学生スタッフの記事より、反響の大きかった記事を紹介します！

日本で過ごした夏休み

教育学部交換留学生(中国) 余 静心

日本に来てもう半年になった。今回の夏休みは元々帰国する予定だったが、台風の影響で帰国することができなかった。しかし、今回の夏休みは大学生活最後の夏休みだから、何か楽しいことをしようと思った。ちょうど平安神宮で行われるコンサートのチケットを手に入れたため、旅行しようと思い、旅行先は京都にした。

京都は最も日本らしい街だと言われる。夜行バスで14時間かけ、京都に到着した。コンサートの前に、金閣寺と二条城を訪れた。金閣寺は流石の世界遺産であり、本当にきれいだ。二条城も非常に歴史のある城だと思う。夜には、平安神宮でコンサートを見て、本当に感動した。翌日、清水寺と伏見稲荷大社を訪れた。清水寺の景色は本当に壮麗で、多くの欧米人が浴衣を着て、お寺参りをする姿も非常に珍しい。伏見稲荷大社の千本鳥居もとても美しいと思う。



二日の京都の旅が終わり、本当に別れが惜しまれた。もし機会があったら、もう一回京都に行きたい。今回の旅行のおかげで、日本のお寺や神社にも興味を持つようになった。今後も他のお寺に行きたいと思っている。

広報第9事務所通信

広報室学生スタッフで組織される「広報第9事務所」。いま伝えたいことをゆくりと発信します。

滝沢農場を紹介します!

岩手大学には、盛岡市の上田キャンパスや釜石市の釜石キャンパスに加え、農学部附属の農場と牧場がそれぞれ1か所・演習林が2か所あります。今回はその中の滝沢農場をご紹介します! 滝沢農場は盛岡市に隣接する滝沢市にあり、農学部の学生が実習で使用しています。広大な敷地で、リンゴやモモ、ナシなどを育てたり、田や畑で作物を栽培したりしています。滝沢農場で収穫された農作物は販売される場合もあるので、滝沢農場産のリンゴやブルーベリーが売られていたら、ぜひ召し上がってみてください。また農学部の学生が実習で利用するため、一般の方や他学部の学生は入れないのでは?と思う方もいらっしゃると思いますが、そんなことはありません! 夏にはブルーベリー摘み取り会が行われ、学生だけでなく一般の方も、ブルーベリーの摘み取りを体験しています! 自分で取ったブルーベリーは買って帰ることができるので、機会があればぜひ1度訪れてみてください!



コーナー担当 ■農学部2年 川戸 菜摘

サークル紹介 マンドリンクラブ

みなさんはマンドリンという楽器をご存知でしょうか。イタリア発祥の撥弦(はつげん)楽器で、ピックを使って演奏します。今回はその楽器を用いて活動を行っている、マンドリンクラブにインタビューしました。



(左から)取材に協力してくれた山田さん、七海さん、佐々木さん

Q: どんなサークルですか?
七海・山田: マンドリンクラブは、マンドリン、マンドリンより1オクターブ低いマンドラ、マンドロンチエロ、クラシックギター、コントラバスの5つの楽器で、マンドリンオーケストラとして練習や演奏をしています。
Q: サークルの雰囲気について教えてください。
七海・山田: 仲良く、ゆったり、楽しくやっています。他の楽器サークルよりゆるい雰囲気ですね。
Q: 入部のきっかけは?
七海: 大学のサークルを調べていて、マンドリンクラブの雰囲気が良かったのと、見学に行ったときに同じ学科の先輩がいて、話しやすかったこともあって決めました。
Q: 部員の人数、男女比は?
30人ちょっとで、男子11人、女子19人で、およそ1:2ですね。



パート練習



皆でピックを作成します!

Q: 大会、公演はあるのですか?
5月の定期演奏会、12月の冬の演奏会が主な活動で、学祭での演奏や訪問演奏の依頼もあります。大会はないです。
Q: 他楽器にないマンドリンのよさとは?
七海・山田: 初心者でもできること。簡単、楽しい! 佐々木: 音を出しやすいことが大きいですね。
Q: サークルとしての目標は?
七海: 知名度を上げたいと思っています。
山田: 部員が増え、楽しく活動できればいいですね。
マンドリンは普段あまり目にするものがないかもしれませんが、インタビュを通して、簡単に演奏できる親しみやすい楽器だとわかりました。部員同士の仲が良く、雰囲気の良さも伝わってきました。これからも素晴らしい演奏を期待しています!

《取材にご協力いただいた皆さん》
部長 農学部 3年 山田 桃子 (青森県立八戸高校出身)
副部長 農学部 3年 七海 亜友 (北海道網走南ヶ丘高校出身)
農学部 2年 佐々木 萌 (福島県立磐城高校出身)

《私たちが聞きました!》
農学部 2年 米田 莉子 (左)
農学部 4年 檜館 葉奈 (右)



サークル紹介 少林寺拳法部

皆さんは「少林寺拳法」という競技を知っていますか? 今、世界で武道競技が注目されています。今回は岩手大学の少林寺拳法部に、活動について聞いてきました!



(左から)取材に協力してくれた藤齋さん、佐藤さん、鈴木さん

Q: 少林寺拳法部ってどんなサークル?
佐藤: 少林寺拳法は簡単に言うと、突きや蹴りに加えて、相手を投げたり倒したりする技を融合した護身術です。大会では技をいかに理解しているかが問われます。未経験で入部する人が多いですが、基本的には上級生が後輩に代々指導しています。
Q: 入部のきっかけ
佐藤: 元々武道に興味がありました。大学進学を機に新しいことを始めようと思い、サークルオリエンテーションで少林寺拳法部を知り、入部を決めました。
Q: 同じく武道に興味があり、少林寺拳法ならほとんどが初心者なので周りと差を感じずにできると思ったので入部しました。
鈴木: 偶然入った建物で少林寺拳法部の先輩に声をかけられた、見に行っているうちに入部しようと思いはじめました。また高校で空手をやっていたので、少林寺拳法は近いと思ったのも理由の一つです。
Q: 少林寺拳法部のアピールポイント
佐藤: メリハリよく活動できること。また学生主体の活動なので、行動力を養える。先輩後輩の仲も良いです。
藤齋: 活動の自由度が高いところ。楽しみながらやりたい人、大会を目指したい人、それぞれの意向に合わせて活動できます。
鈴木: 様々な人と関わりが持てて、色々な経験ができることです。



練習の様子



大会後の集合写真

今回の取材では、競技に対する想いはもちろん、人との繋がりを大切にする和気あいあいとした部の温かい雰囲気も伝わってきました。これからも少林寺拳法部の活躍に期待です!

《取材にご協力いただいた皆さん》
主将 農学部 3年 佐藤 太一 (埼玉県立浦和高等学校出身)
副将 理工学部 3年 藤齋 祐希 (岩手県立盛岡第三高校出身)
副将 理工学部 3年 鈴木 理沙 (青森県立八戸高等学校出身)

《私たちが聞きました!》
人文社会科学部 4年 松嶋 莉花 (右)
農学部 1年 高田 絵梨 (左)



Q: 少林寺拳法部に入部して良かったことは?
佐藤: 幅広い人達と繋がりができました。
藤齋: 部員や外部の方々とコミュニケーションをとる中で、学ぶことが多いです。
鈴木: 社会に出てから役立つような交流もあります。個人的には人前で話す機会も多いので、良い経験になっていると感じています。
Q: これからの活動の目標
佐藤: 技の理解を深めて、後輩へ指導することです。わかりやすい教え方が目標ですね。
藤齋: 部員に少林寺拳法を楽しんでもらうことです。
鈴木: 私は少林寺拳法部の代々受け継がれてきた雰囲気が好きで入部したので、その伝統を後輩に伝えたいです。

TOPICS トピックス

NTT ドコモと ICT を活用した地域創生の推進に関する連携協定を締結

岩手大学と株式会社 NTT ドコモは7月25日、ICT を活用した地域創生の推進に関する連携協定を締結しました。

岩手大学の研究成果と、NTT ドコモの次世代移動通信システム「5G」や各種 ICT ツール・サービスなどを組み合わせた産業振興や最先端技術の開発、人材育成に取り組み、地場産業の活性化を図ります。



協定書を手に握手を交わす岩渕学長（左）と吉澤社長（右）

復興大臣より岩手大学へ感謝状



（左より）晴山総務部長、岩渕学長、吉野復興大臣（当時）、菅原復興・地域創生・男女共同参画担当理事

岩手大学のこれまでの震災復興への取組に対し、復興大臣より感謝状を贈呈されました。

7月26日には復興庁岩手復興局にて感謝状贈呈式が行われ、陸前高田グローバルキャンパスの設置や国際防災・危機管理研究岩手会議の開催など、本学の震災復興に関連する活動について、岩渕学長より復興大臣へ報告しました。

「ガンダイニング」が今年も放送開始！

岩手大学を紹介するテレビ番組、「ガンダイニング」の放送が今年も始まりました。10月から12月にかけて、岩手大学の様々な活動や魅力にスポットを当て、学生生活・研究・地域貢献や東日本大震災からの復興への取組などの情報を、地域の皆様に発信していきます。

放送日：10月2日スタート

毎週火曜日 18:55～18:58 放送

（再放送 24:55～24:58）

IBC 岩手放送（TBS 系列）

岩手県在住の方以外にもご覧いただけるように、後日公式 YouTube に動画を掲載します。



レポーターの木村さん（左）と佐藤さん（右）

Introduction to a senior

センパイ 紹介!!

OB-INTERVIEW インタビュー

第38回



大学院生 PROFILE

すがわら りゅうすけ 菅原 隆介さん

宮城県 仙台生まれ
平成29年3月
教育学部数学科卒業
筑波大学大学院
数理物質科学研究科 数学専攻
博士前期課程2年

Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

やはり冬の寒さの異常さでしょう。私は隣の宮城県出身で多少の寒さであれば耐えられると思っておりましたが、また違った寒さが盛岡にはありました。毎年11月に差し掛かると憂鬱になったのを覚えています。大学での活動に関しては、サークル活動でしょうか。私はサイクリング部に所属していました。3年になってからはゼミに追われてしまい全く参加できませんでしたが、それまでは存分に楽しませていただきました。優しい先輩と気が利く後輩と、ふざけた同期たちに囲まれ共に様々な活動ができたのはいい思い出です。

Q2 大学院に進学したきっかけはどのようなことですか。

学部時代に、数学教育よりも純粋数学の方の講義に興味をもってしまい、そのままズルズルとこちらの道に来てしまいました。おそらく非常に興味深く、おもしろい講義を私にして下さった先生のせいですね（笑）。それに加えて吉井洋二先生のもとで勉強できたことも大きな要因になったと思います。

Q3 研究のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

現在は博士前期2年ですが、このまま後期課程に進学し博士号を取ろうと思っています。再び岩手大学に教員として帰ってくる…というのが理想ですが、なかなか現実には厳しそうですね。最近、高校生向けに数学の出前講座を行うという活動を始めました。研究だけでなく教育や後進の育成も研究者に課せられた義務であると考えており、今のうちからコツコツ活動をして、より多くの人たちに数学の面白さを伝えていければと思います。

Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

たくさんバイトをして、いろいろな人と話をして、積極的に様々な活動に参加してほしいなと思います。やはり大学で培った能力や人脈は、その先の人生に大きく影響を及ぼします。また、何のための4年間であるのかはしっかり考えてください。進学のためなのか、就職のためなのか、そのほかの目的のためなのか。岩大から素晴らしい人材がたくさん生まれることを楽しみにしています。

Information

岩手大学創立70周年記念事業募金へのご協力について

岩手大学は、1949年の創立以来、2019年に70周年を迎えます。その節目にあたり、これまでの足跡を振り返るとともに東日本大震災発生後の取り組みをとりまとめ、地域や世界に向けた発信、及び未来への伝達を包括する、「読んで、見て、感じて、活かし伝えていく」岩手大学創立70周年記念事業を実施します。この記念事業を進めるにあたり、教職員、学生の大学構成員をはじめ、同窓生や学生の保護者、産官民の多くの関係者の皆様より広くご支援を賜りたく、創立70周年記念事業募金を創設し、募金活動を行うことといたしました。この趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますようお願いいたします。



募金事業の詳細、申込・払込方法については、イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。
岩手大学イーハトーヴ基金ホームページ：
<http://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkikin/>

【お問い合わせ】財務部財務課 財務総括グループ
TEL：019-621-6024
E-mail：zsomu@iwate-u.ac.jp

平成30年度後期授業公開のお知らせ

岩手大学では、下記の期間中、教養教育科目を一般公開いたします。この機会にぜひ岩手大学へお越しいただき、授業をご参観ください。
日時：11月5日（月）～11月9日（金）
受付時間：8:30～17:00

対象：一般市民（制約はありません）

参観料：無料

*事前の申し込みは不要です。当日ご参観前に学生センターA棟1階エントランスホールの受付にお立ち寄りください。講義室のご案内・見学者用名札等をお渡しします。

【お問い合わせ】教育推進機構 TEL：019-621-6554
E-mail：uec@iwate-u.ac.jp

岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式 Facebook、YouTube、学長 Twitter を更新中！Facebookには、広報室学生スタッフが取材した記事も掲載しています。ぜひ覗いてみてください。



岩手大学公式 Facebook：
<https://www.facebook.com/iwate.u>

岩手大学公式 YouTube チャンネル：
<https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPkSvGSMYwK1aOA>



岩渕学長 Twitter：
https://twitter.com/iwate_u_ai2016

Hi!こちら岩手大学

岩手大学広報誌 Vol.41 OCTOBER 2018.10

編集後記

たくさんの方々のご支援によって、今号も無事に発行することができました。

「鳥人間コンテスト」での“décoller”の見事な活躍に拍手を送りたいです。また、記事にはありませんが、同時期に始動した「ET ロボコン」でも、“がんちゃん+One”が東北地区総合優勝を果たしチャンピオンシップ大会（11月14日開催）へ進出します。共に苦難を乗り越えて10年以上継続的に取り組んだ成果が実った瞬間でしょう。継続は力なりです。

Hi!こちら岩手大学 vol.41

岩手大学広報室広報誌専門部会

2018年10月 発行

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

電話 019-621-6015 FAX 019-621-6014

E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp <http://www.iwate-u.ac.jp/>

本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。

Quality First
hokushu
YAMAGUCHI HOKUSHU PRINTING CO., LTD.

Since 1893